

ならの
みやこの
しよくぶつえん



土の中の花鳥風月



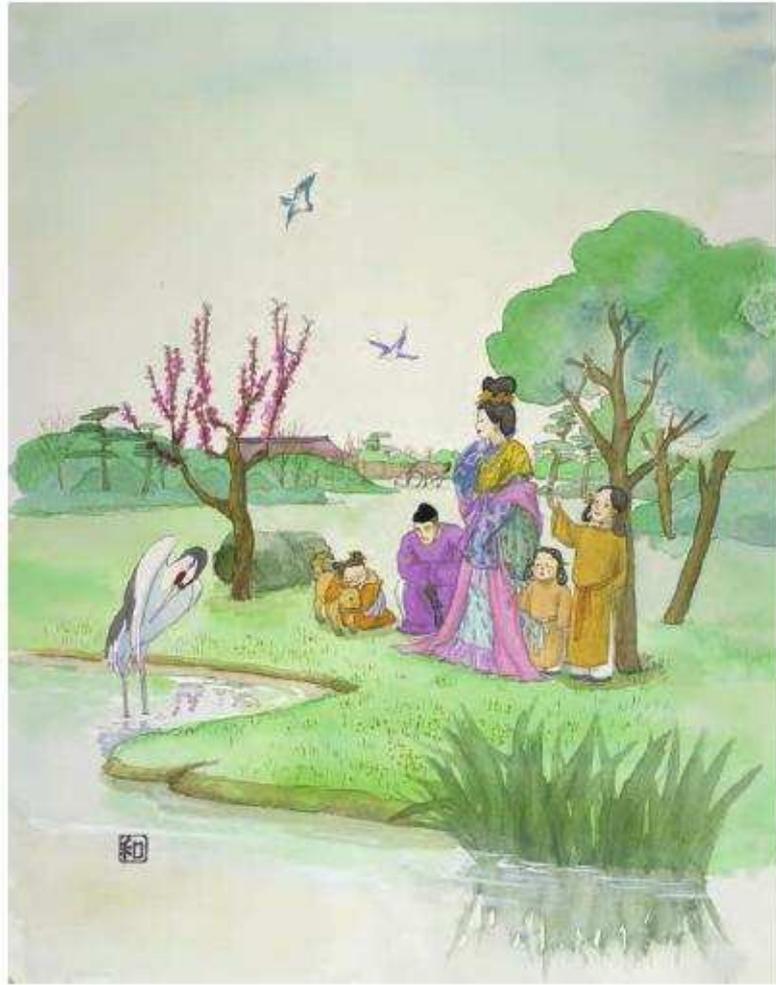
The Summer Exhibition for Children at The Nara Palace Site Museum
Gardens in the ancient capital of Nara : The Unearthed Natural Beauty

平城宮遺址資料館 夏季児童展《平城京植物园：发掘出的花鸟风月》
헤이조공유적자료관 여름 어린이 전시회《헤이조교 식물원: 발굴된 화조풍월》



凡例

1. 本書は、奈良文化財研究所平城宮跡資料館でおこなう2019年度夏のこども展示「ならのみやこのしよくぶつえんー土の中の花鳥風月ー」(会期7月20日～9月1日)にあわせて編集したものである。
2. 本展覧会は、奈良文化財研究所企画調整部展示企画室が企画、実施し、奈良国立博物館が共催した。
また、文化庁、国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、平城宮跡管理センター、平城京再生プロジェクト、近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社、株式会社南都銀行の後援を賜った。
3. 本書は、企画調整部長加藤真二・廣瀬智子が執筆し、廣瀬が編集を担当、座覇えみ、藤田友香里が協力、福島冠如が補佐した。
本書の資料写真は、企画調整部写真室中村一郎が撮影し、鎌倉綾が補佐した。本書の作成にあたり、今井晃樹、岩戸品子、浦蓉子、上中央子、大澤正吾、芝康次郎、中田愛乃、馬場基、福岡啓人、星野安治、山本祥隆が協力した。
4. 本書の万葉集の表記は、岩波書店の『万葉集 新古典文学大系』に拠った。
5. 掲載している遺物写真の縮尺は任意である。
6. 挿図のイラストは、早川和子の作画による。
7. 本書の作成にあたって、植物の画像及び情報の提供を次の方々より賜った。記して感謝いたします。(五十音順・敬称略)
岡本和男、永岡美和



ならのみやこ^{へいじょうきょう}“平城京”。

そこに住^すんでいた人々や地方^{ひとびと ちほう}からやってきた人々は、

どんな木々や草花^{きぎ くさばな}に代表^{だいひょう}される自然^{しぜん}の美^{うつく}しさにふれ、なにを想^{おも}ったのでしょうか？

遺跡^{いせき}から出土^{しゅつど}する木簡^{もっかん}、土器^{どき}や瓦^{かわら}などの考古遺物^{こうこいぶつ}、

タネ^{かふん}や花粉^{しぜん}などの自然遺物、

そして万葉集^{まんようしゅう}などをてがかりに、

どんな花^{はな}や草木^{くさき}が植^うえられていたかを考^{かんが}えてみたいと思^{おも}います。

ならのみやこ「平城京」には、ほんとうに「植物園」のようなところがありました。いくつかみてみましょう。

①平城宮のお庭・菜園

平城宮やそのまわりには、「苑」と呼ばれたお庭がいくつもありました。復原された東院庭園もそのひとつ。いろいろな植物が植えられ、一部は畑や薬草園としても使われたんだって。
 園池司という役所が、管理の一部をしていたと考えられているんだよ。

17ページでもでてくるよ。



平城宮の近くにあるお庭・菜園

②貴族のお庭・菜園

長屋王をはじめとする大貴族のお屋敷にはお庭がつくられていました。
 また、「園」という菜園(畑)も各地にもっていて、そこからいろんな作物が運ばれていたんだよ。

8ページのハスの葉っぱもそのひとつ。

③お寺のお花畑

お寺では、仏さまへのお供え物、さまざまな儀式などに、たくさんのお花が必要です。
 このため、「花苑」とよばれるお花畑があって、そこでたくさんの草花が育てられていたんですよ。



薬師寺の花苑があったとされる場所
 (復原・福山敏男『薬師寺創基の研究』宮上茂隆より引用)

どんな草木、花々が植えられていたか…？
 つぎに、遺跡からみつかった植物をみてみよう！

II

遺跡から
みつかった植物

松 マツ

マツは、ほかの木が葉っぱを落とす冬でも青々とした葉をつけています。そのため、天から神様が下りてくる木と考えられ、おめでたい木とされていたんだよ。マツは、森や林の木を切った後の場所に生えてきます。奈良時代よりも前の時代から、木々が切られていた平城京の周辺では、マツ林がたくさん見られたのかもしれないね。



みなさんもよく知ってるマツボックリ。
1300年前の遺跡からもみつかったんだよ。
昔も今も、見た目はかわりませんね。



「松原」の草刈りを17人でおこなったことが書かれた木簡。リーダーとして、「中衛」という警備の兵士がついたんだって。この「松原」は、平城宮の北にあった広大な「松林苑」だったと考えられています。何人で草刈りしたのかがわかるだなんて、おもしろいね。



檜扇(木でできた扇)のうらに、マツの絵が描かれているよ。とっても上手だと思いませんか？正倉院宝物で似たような絵柄があるんだよ。本物の絵描きさんが描いたのかもしれないね。

II

遺跡から
みつかった植物



蓮 ハス 花

奈良時代に全国に広まった「仏教」と「蓮」は、とても関係が深かった。



奈良時代、ハスの花は、池だけでなく、なんとお寺^{でら}や宮殿、役所、貴族のお屋敷など、大きな建物の屋根の軒先^{のきさき}にもならんで咲いていました。そう、丸い瓦^{かわら}の花模様は、ハスの花なんだよ。このほか、ハスの花は土器^{どき}に描かれたり、お寺の仏像^{ぶつぞう}や道具^{どうぐ}をかざったりしているよ。



これは、ハスの花ではないかもしれないんだ。なんのお花かなあ…？



三彩のあざやかな多口壺には、ハスの花をこのようにかざって、仏さまにお供えていたのかもしれないね。

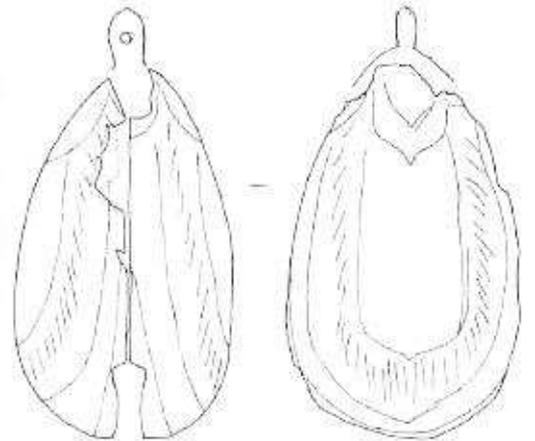
平城宮・京から出土したいろいろな蓮華文軒丸瓦



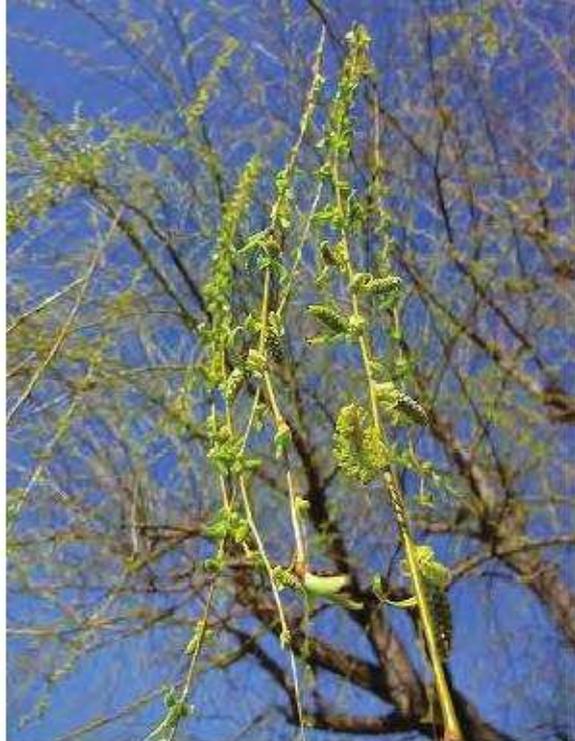
花びら1枚をとりだしてみるとわかるかなあ？



垂飾金具 (薬師寺出土)



お寺から出土したキラキラの金具にも、ハスの花びらが…!



ひさかたの 雨も降らぬか
蓮葉に 溜まれる水の
玉に似たるを見む

万葉集卷十六の三八三七

雨でも降らないかなあ。そうしたら、
蓮の葉にたまっている水が
玉にそっくりなのを見よう。

II

遺跡から
みつかった植物

蓮 ハス 葉

歌作りが上手なみやこを守るある役人が、^{えんかい}宴会でよんだ歌です。
その宴会では、ごちそうがすべてハスの葉に^も盛り付けられていたそうですよ。
^{とうじ}当時は、葉っぱをお皿のかわりにすることが多かったみたい。5月は青い^{かしわ}柏の葉、
夏はハスの葉、その他の季節には干した柏などが使われたんですって。



女
六月廿四日 真人



片岡
進上
蓮葉卅枚
都夫良 持人

←「都夫良女」という女の人が、ハスの葉っぱ40枚を
^{かたおが}片岡(奈良県葛城郡王寺町・香芝市あたり)から^{ながやおう}長屋王という
^{きぞく}貴族のお屋敷(奈良市内)まで^{はこ}運んだことがわかる^{もつかん}木筒。
一回に運んでいる葉っぱの枚数は、だいたい30~
40枚なんです。これは、長屋王のお屋敷の宴会一回
で使う枚数だと考えられているんだよ。
別の場所から出た木筒には、ハスの葉をなんと!
200枚も送られた例があります。宴会の規模によって
必要なハスの葉の枚数もちがっていたんでしょうね。

夏の宴会につかわれたうっわ。

長屋王のお屋敷のあとからでてきたハス!

お花かなあ?

それとも、宴会でつけたあとの葉っぱかなあ?

ハスの実が入っている部分かなあ?

1300年前の状態じょうたいのままで出てくるなんて…

すごいですよね!



ハスの実入りごはんもあったみたい。

奈良時代の料理として復原された、ご飯をハスの葉で包んだちまきのようなもの。葉っぱはお皿になるだけでなく、料理にも使われたんですね。



ハスの実→

II

遺跡から
みつかった植物

瓜 ウリ

遺跡からは、とつてもたくさんウリのタネが
みつかります！タネのある部分はおいしいから
タネごと食べたみたいだね。

瓜を食べると子どものお腹が思われる。
栗を食べるとまして偲ばれる。
いったいどこからやってきたのか
その面影が目の前にむやみにちろついて
安らかに眠らせてくれない

瓜食めば 子ども思ほゆ
栗食めば まして偲はゆ
いづくより 来たりしものそ
まなかひに もとなかかりて
安眠しなさぬ

万葉集巻五の八〇二



現在のマクワウリ



出土したウリのたね

合百九十六果

天平八年七月十五日



瓜一駄 負瓜

←天平8年(736)の7月15日にウリを送り届
けていることがわかる木簡です。
暑い中、皇后宮を守る兵士ののどを潤すため
にウリが食べられていたんだって。
「一駄」とは、「馬一頭にのせてきた」、という意
味で、「負瓜」は馬に「のせていたウリ」、という
意味なんだよ。
馬で運ぶウリの数は、大きさにもよって、100
～200個くらいだったみたい。

II

遺跡から
みつかった植物

ブドウが鏡かがみ ひょうげんに表現されています。
遺跡からもブドウのタネがでてくるんだ。
でも、小さいので、ヤマブドウやノブドウなど
のような小ぶりの実だったみたい。
食べるよりも、布ぬのをそめる染料せんりょうとして使われる
ことが多かったみたい。



ブドウのたね



ブドウ
はっけん!

かいじゅうぶどうさきょう
海獣葡萄鏡

葡萄

ブドウ

II

遺跡から
みつかった植物

紅花で染めた衣は、
雨が降って
色が美しくあらわれることはあっても、
あせることがありませんか。
紅に 染めてし衣
雨降りて にほひはすとも
うつろはめやも 万葉集卷十六の三八三七



紅花

ベニバナ



辛紅
両面

↑「辛紅しんく」は深紅、「両面にじゅうめん」は二重織りの織物おりもののこと。
紅花で染めた紅色くれないいろの布のことをさしているのかな。

発掘でみつかったくない?!
まぼろしの植物

柳

ヤナギ

春の日に、芽をふくらませた柳の枝を
手にとつて見ると
奈良の都の大路が思われることだ

春の日に張れるヤナギを
取り持ちて見れば
都の大路思ほゆ

万葉集卷十九の四二四二



ヤナギの新芽

おおもものやかもら
↑ 大伴家持という人が奈良の都を思いだしてよんだ歌。
「都の大路」という表現から、平城京の大きな道路(大路)に植えられていたと考えられています。鳥取県の古代の道路の遺跡からは、街路樹のヤナギがそのままみつまっているんだよ! でも、平城京ではまだ発掘調査でみつからないんだ。
いつの日かみつかるかも…?

槐

エンジュ

平城宮跡歴史公園「朱雀門前ひろば」
にありますよ。みつけてみてね!



二条大路南側にあるエンジュ

← 平城京の右京四条から届けられたエンジュの花の送り状の木筒です。街路樹として植えられていたエンジュの花は、みやこの各地から薬の材料として届けられていたみたい。
ヤナギとともに、街路樹として植えられていたとされているけど、花粉やタネは、発掘されていません!



エンジュのつぼみと花



ハギの花

萩

ハギ

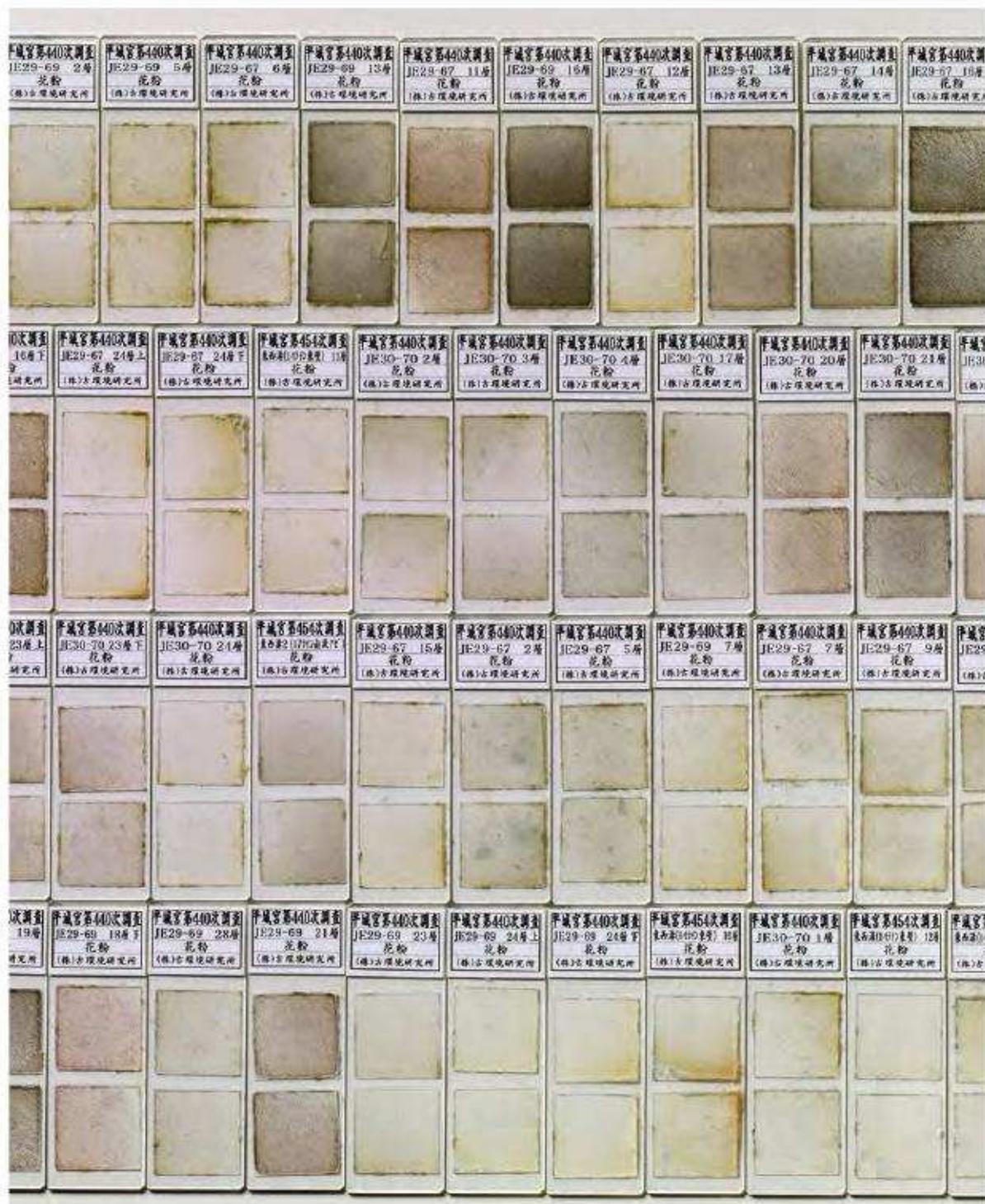
ハギは、万葉集で多くよまれている花なので、奈良時代には身近な植物だったと考えられるけれども、花粉などはまだみつからないよ。

右京四条

槐花六斗



これはなんでしょう？



いせき ぶんせき
遺跡からでてきた花粉を分析するためのプレパラートです。

ここから、どんなことがわかったのかな？



III

平城宮の役人たちが目にした草花

平城宮で^{てんのう}天皇や^{やくにん}役人がみた植物とは？

平城宮で役所が^{あつ}集まっていた^{ちく}地区のひとつである「^{とうほうかんが}東方官衙地区」というところから、大きなごみ捨て穴（SK19189）がみつかりました。そのなかから、みつけたした「花粉」や「タネ」について紹介するよ！

ここでわかった植物は、日ごろ東方官衙で働いていた役人たちが、仕事のあいまに見たり、食べたりしていたものなんですよ。

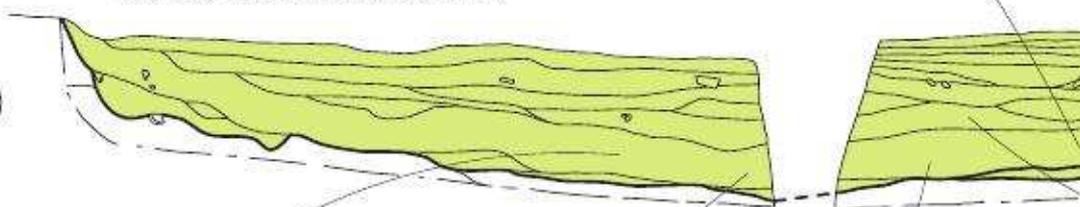
みなさんが目にしたことのある身近な草花もきっとあるはず…！

1300年前、 平城宮に 生えていた草花



カタバミ属

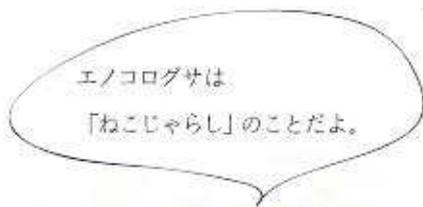
イネ科・ヨモギは
どの^{そう}層からも出てきたんだって。



エノコログサ属

アカザ科・ヒユ科
オミナエシ科

ナデシコ科





東方官衙地区の大きなごみ捨て穴 (SK19189)



ごみ捨て穴の断面

ここで見つかった植物のタネや花粉から、このゴミ捨て穴が埋まった当時、この場所は日当たりがよくて、乾燥した環境であったことがわかったんだよ。

断面を図にすると…

現代の平城宮跡でもよくみられる花だね

11ページで紹介した紅花もでてきたよ!

花粉が遠くに飛ばない植物なので、近くに花が咲いていたみたい。



ベニバナ

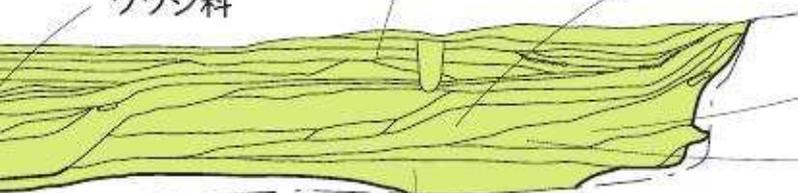


タデ属サナエタデ節



チドメグサ亜科

ツツジ科



0 2m



ザクロソウ

カヤツリグサ科



ギシギシ属



かわった名前の「ギシギシ」。奈良時代には「羊蹄」と記されていたんだ。どう利用していたと思う? このあと紹介するね。

ここで見つかった植物、現代の平城宮跡でもみることができるんだよ。

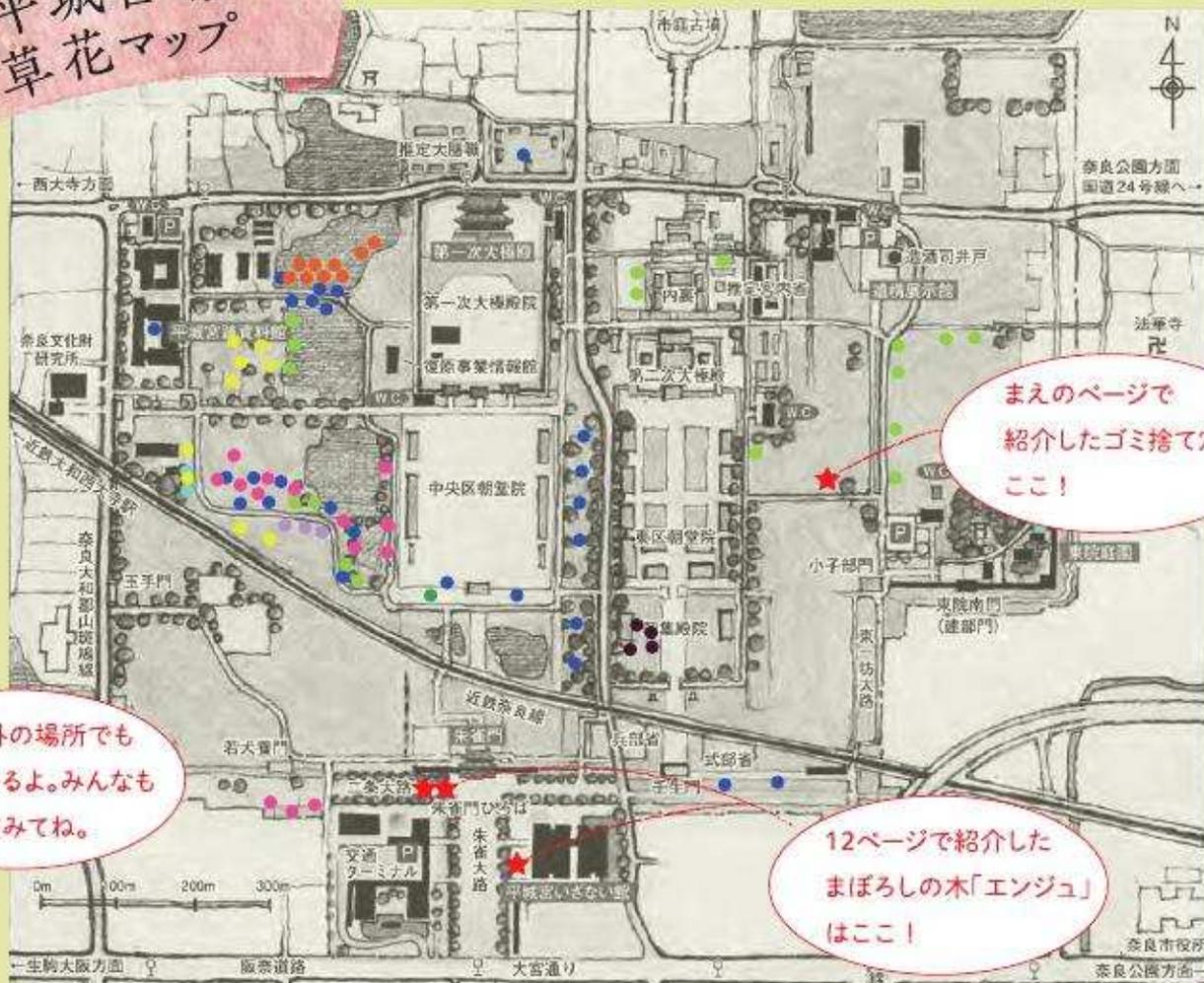
奈良時代のゴミ捨て穴から

みつかった草花のなかまを、さがしにいこう

** 1300年前から、ずっとそこに生きていたわけではないけれど… **

いまの

平城宮跡 草花マップ



まえのページで
紹介したゴミ捨て穴は
ここ！

●印以外の場所でも
生えているよ。みんなも
みつけてみてね。

12ページで紹介した
まぼろしの木「エンジュ」
はここ！

- * ●カタバミ 5~9月
 - カヤツリグサ(イネ科) 8~9月
 - * ●アキノゲシ(キク科) 8~11月
 - * ●エノコログサ(イネ科) 7~9月
 - * ●メヒシバ・オヒシバ(イネ科) 8~9月
 - アシ(ヨシ)
 - * ●ニガナ(キク科) 5~7月
 - * ●スイバ(ギシギシ属) 5~8月
 - ノミノフスマ(ナデシコ科) 3~8月
- *印は、宮跡のどこでもみられるよ。



● スイバ(ギシギシ)



● カタバミ



● エノコログサ



● アキノゲシ



● ニガナ



● カヤツリグサ



● ノミノフスマ



● オヒシバ



● メヒシバ

菜園で育てられていた
植物には
こんなものが
ありました

えんちし
園池司から食用の植物が運ばれたことがわかる木簡です。

あおな
青菜を中心とした7種類の植物が記されているね。

実は、いまでも見られる身近な草なんだよ。

この7種類のお野菜は、^{あま}尼さんへふるまった料理のおかずなんだって。

カブの葉っぱ



蔓菁
アオナ

アオイっていう花みたことある？

ここでは、フユアオイの葉っぱが
食べられていたと考えられているよ。



葵
アフヒ

ダイコンの葉っぱ



蘿蔔
オホネ

前のページで紹介したゴミ捨て穴から
出土したものや、現代の平城宮跡でも
みられる草もあるね。

園池司

園池の管理や、お野菜・果物を育てて
収穫し、宮に運んだりしていた役所な
んだって。なんと！クジャクを育てて
いたこともあったらしいよ！

毛付瓜

トウガン
ウリのタネは平城宮からたくさん
でてるね。(10ページ)

羊蹄

でました、「ギシギシ」！
1300年前の平城宮でも、現代の
平城宮跡でもみることができる草。
奈良時代にはよく食べられていたみたい。

茶

オホツチ

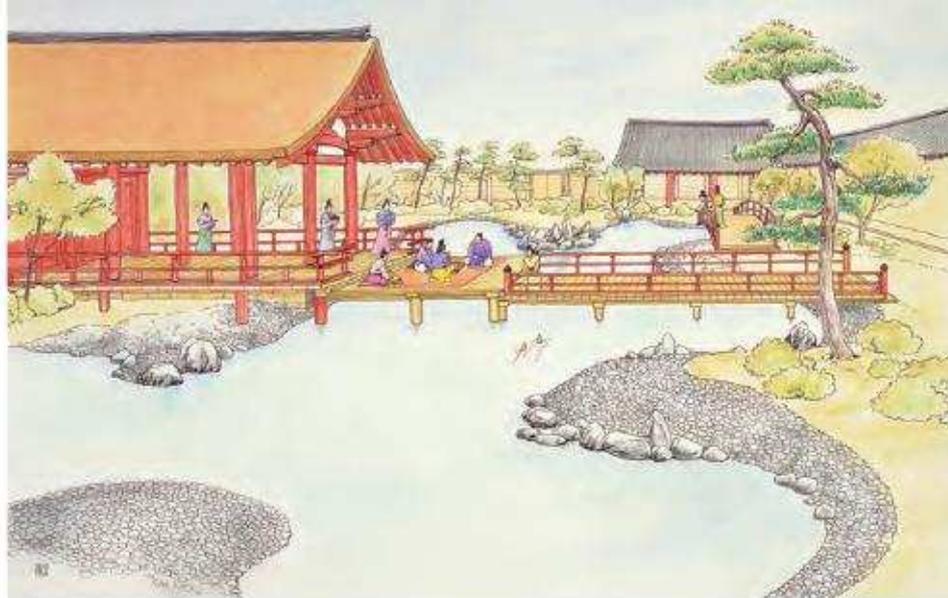
いまの「ニガナ」か「ノゲシ」のようなも
のなんだって。
いまの平城宮跡にも生えているから、
左のマップもみながらさがしてみると
いいかもね。

蓼
タデ

「タデ食う虫も好き好き」ということわざ
があるように、辛みのある味なんだって。
アユの塩焼きといっしょに食べる蓼酢や
お刺身のつまなど、現代も薬味として食
べられているんだよ。

IV

天皇や貴族が
植物をながめながら
歌を楽しんだお庭



東院庭園とういんていえんは、平城宮とうなんすみの東南隅につくられたお庭です。

天皇や貴族たちが、宴うたげをして楽しんだところなんですよ。

ここでは、池の中や岸から出土した木のみき、えだ、葉っぱ、花粉、タネなどの種類や位置から、どこにどんな植物が植えられていたのかが推定されています。

これらは、天皇をはじめとする、とてもえらい人たちが目にして、歌によんで楽しんだ植物といえますね。

東院庭園

とういんていえん



センダン



ウメ



モモ



マツ

東院庭園から出土したタネ

植えられている場所

- 1 発掘調査で枝などがまとまって出土したところ
- 2 植えられていた木の根っこ跡が見つかったところ

植えられている木の種類

- 1 発掘調査で見つかったもの
- 2 昔の植物はみつからなかったけれど、「万葉集」などから、奈良時代にあった可能性が高いと考えられるもの

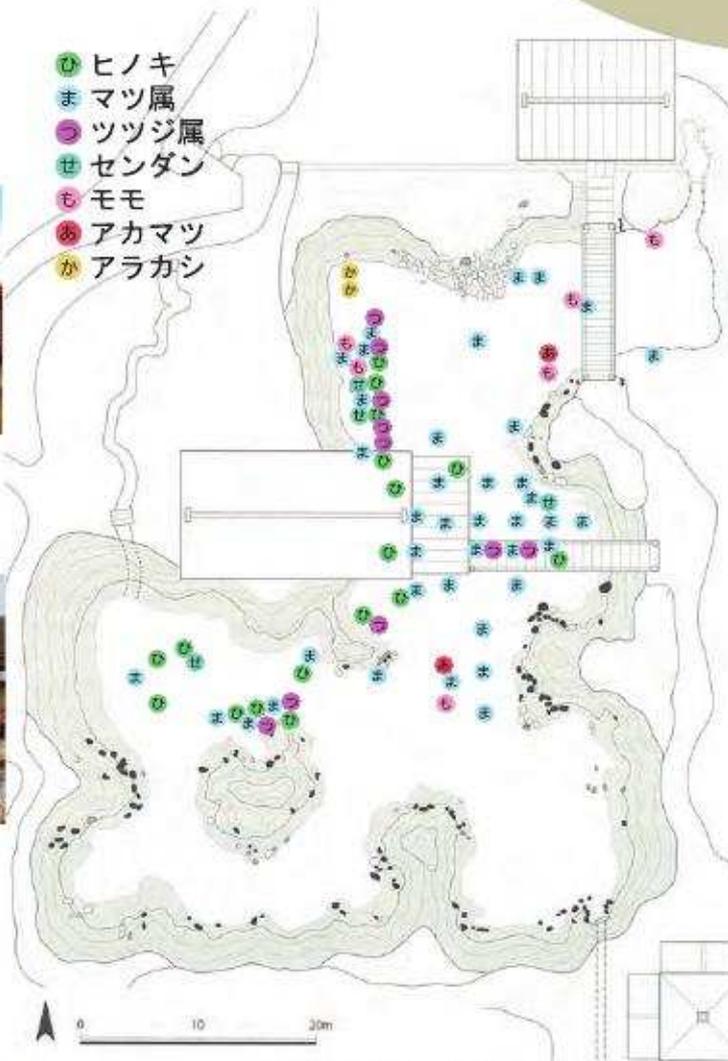
東院庭園の木々は、
発掘調査でわかった成果をもとに
植えられているんだ。



マツ



モモ



ヤマモモ

東院庭園は、奈良時代に「楊梅宮」とよばれていたことからヤマモモ(楊梅)を植えているんだよ。



センダン



ハギ



ヤナギ

発掘調査で確認された植物と出土した場所

V

奈良時代のひとが描いた花鳥風月



いろいろな花 つどう鳥たち

奈良時代のひとが目にした花と鳥



鳥は何羽いる？



何の花かなあ？



植物を中心に、ならのみやこの花鳥風月かちょうふうげつをみてきました。
こうした自然うつくの美しさを古代こだいの人々も楽しんだことでしょう。
みなさんの頭の中に思いうかぶ「ならのみやこのしよくぶつえん」では、
人々は、いったいどんな木々や草花をめで、
どんな鳥たちや虫たちあそと遊んでいるのでしょうか？
このように想像そうぞうすると、
きっと、ならのみやこや暮くらしていた古代の人々が身近みぢかに感じられるのではないのでしょうか？

2019年度 平城宮跡資料館 夏のこども展示

【ならのみやこのしよくぶつえんー土の中の花鳥風月ー】

発行日 2019年7月20日

発行 独立行政法人 国立文化財機構

奈良文化財研究所

〒630-8577 奈良市二条町2-9-1

<http://www.nabunken.go.jp/heiijo/museum/>

企画編集 奈良文化財研究所 企画調整部 展示企画室

印刷 能登印刷株式会社